

“小さな群れよ、恐れるな。あなたの父はよろこんで神の国をくださる”（ルカ12-23）

小さな群れ

カトリック美唄教会

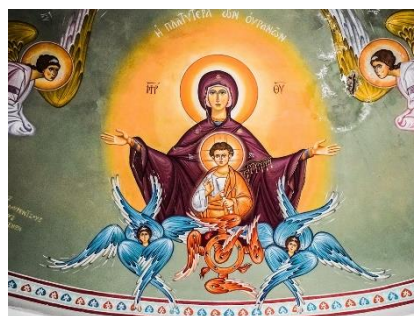
2023年 8月 No.315

2023年7月30日発行

Fr. Narciso Cavazzola ofm

8月6日から15日までは、“日本カトリック平和旬間”です。もう一度心からの平和への願いを、新たにしたいものです。世界の動きをみると、平和とはほど遠い現状なのです。

ロシアのウクライナへの軍事侵攻から1年が過ぎ長期化され、多くの人々の犠牲は増え続けています。教皇も心を痛み、何度も平和のためのメッセージを送っておられます。



8月15日には、聖母の被昇天祭を迎えます。この日は、多くの人々に天のふるさとを思



い起こさせます。

昨年までは新型コロナウイルス感染症の影響で、旅をする人もわずかでしたが、今年はふるさとに向けて日本中は多くの旅人でごった返すでしょう。

この旅は、わたしたちの真のふるさと、人生の到着点を思い起こさせます。わたしたちは15日を、いろいろな思いで迎えるのではないのでしょうか。多くの人にとってこの日は、亡くなった身内を思うときであり、また、敗戦の日でもあります。

日本の戦争は聖母の祭日にはじまり、聖母の祭日に終了したのです。聖母を思いつつ、この月を、聖母に託して過ごしながら、人生の到着点をも考える月にしたいと思います。

(Laudate 参考)

2023年8月 主日ミサ・平日のミサ予定

主任司祭 ナルチゾ神父

美唄教会 小さな群れ

2023年 8月 No.315

2023年 7月30日発行

朝の祈り 平和の祈り

日	曜	ミサ		各種勉強会	会議・その他事項
		主日・祭日	時間		
4	金		午前10:30	ミサ後聖書に親しむ	
6	日	主の変容	午前11:00		
11	金		午前10:30	ミサ後聖書に親しむ	
13	日	年間第19主日	午前11:00	慰霊祭追悼ミサ	
15	火	聖母被昇天	ミサなし		砂川教会にて ミサ午前9:00より
16	水		午後6:00	ロザリオの祈り	
18	金		午前10:30	ミサ後聖書に親しむ	
20	日	年間第20主日	午前11:00		ミサ後運営委員会
25	金		午前10:30	ミサ後聖書に親しむ	
27	日	年間第21主日	午前11:00		

《 平日のミサ 》 金曜日のみ 午前10:30 4・11・18・25日です
 《 聖書を親しむ 》 平日のミサ後、旧約聖書に親しんでみませんか。

霊名の祝日（敬省略）			清掃当番	花当番
11日	クララ	ウッケッドウ恵美・米通 心・船野 由美	第2週 河野 オオヤマ・レオ ニーラ 第4週 村田	東
15日	被昇天マリア	建部 絢子・加賀 綾子		
21日	聖ピオ10聖	菅野 牧雄		
23日	ローザマリア	山本 育子・佐藤 礼子		
27日	モニカ	ウッケッドウ萌丹花すみれ・三間 信子 坂本 礼子・米通 理奈・松本 久美子		
28日	アウグスチーノ	菅野 仁		

【お知らせ】

◎6月25日 聖ペトロ使徒座への献金は7300円でした。司教館に送りました。

◎砂川共同墓地にて慰霊祭追悼ミサがあります。（ミサは砂川教会9時より）

新しい「ミサ式次第」について

2022年11月27日待降節から始まった新たな典礼への旅、新しい「ミサ式次第」

について、言葉と動作について慣れて

来たように、思いますが如何でしょう

か。聖書と典礼でも毎週ミサ式文の味



わいという解説がありますが、サンパウロから発行されている「キリストと私たちのミサ」

(新式次第版)の中から前書きの一部を紹介したいと思います。

① 聖体祭儀の秘義

【われわれの救い主は、渡される夜、最期の晩餐において、御からだと御血による聖体のいけにえを制定された。それによって、十字架のいけにえを再臨のときまで世世に永続させ、しかも愛する花嫁である教会に、ご自分の死と復活の記念、すなわち慈しみの秘跡、一致のしるし、愛のきずな、過越しの宴を託された。この宴において「キリストが食べ物となられ、心は恵みに満たされ、将来の栄光の保障がわれわれに与えられる」したがって教会は、キリスト信者が、部外者あるいは無言の傍観者としてこの信仰の神秘に列席するのではなく、儀式と祈りを通してこの神秘をよく理解して、意識的に、敬虔に、行動的に聖なる行為に参加し、神の言葉によって教えられ、主の御からだの食卓で養われ、神に感謝



し、ただ司祭の手を通してだけではなく、司祭とともに汚れのないいけにえをささげて自分自身を捧げることを学び、キリストを仲介者として、日々神との

一致と相互の一致の完成に向かい、ついには神が全てにおいて全てとなるように細心の注意を払っている。】（「第2バチカン公会議公文書 改訂公式訳」） 典礼憲章」47, 48 番）
（カトリック中央協議会）

② 歌の重要性

「主」の再臨を待ち望みつつ一つに集まるキリスト信者は、詩編、賛歌、霊の歌をともに歌うようにと「使徒」から勧められています。歌は心の喜びのしるしであるからです。

聖アウグスチヌスは、「歌を歌うのは愛している証拠」と言いましたし、古くからの言い伝えにも、「よく歌う人は倍祈ることになる」とあります。〔『ローマ・ミサ典礼書の総則』 39 参照〕



なお、今回ご紹介しました①②の紹介文については、出版元のサンパウロ宣教企画編集部
に許可を頂いています。

ナルチゾ神父様もミサにあずかるのではなく参加し捧げていく、司祭とともに感謝し捧
げていくと言われています。 文：大城繁子

【書籍紹介】

判型：A6 判
ページ数：116 ページ
定価：495 円（本体 450+税 10%）
ISBN：978-4-8056-2104-2
発行：サンパウロ



光明社のほかで発売中です。